

商店街の連携強化で再開発に対抗

**再開発が進む国分寺駅北口。
8つの商店街の連携イベントの積み重ね
で組織強化をめざす。**

**駅ビル竣工で打撃。
さらに再開発も開始**

国分寺駅はJR中央線、西武国分寺線、西武多摩湖線の3路線が乗り入れるターミナル駅である。明治22年の駅開業以来、昭和63年の南北自由通路開設によって橋上駅舎化されるまで、中央線によって南北に分断されていたことから、それぞれ別個に街区が形成されてきた。現在、駅北口の本町地区には5つの商店街がある。駅北口から東京方面に向かう線路に沿って東側に延びる東栄会のメイン通りは、駅を利用する市民のほか早稲田実業学校、東京経済大学、東京学芸大学といった近接する学校に通学する生徒、学生の通り道となっており「大学通り」と称され

ている。若者向けの飲食、サービス業を中心の店舗構成で、本町地区でもとりわけ活気のある通りとなっている。しかしながら橋上駅舎化に伴う平成元年の駅ビル竣工以降、北口各商店会では物販店を中心に廃業が目立つようになり、長らく地盤沈下傾向にある。

北口、本町地区では最も元気のある東栄会もその例に漏れず、往時の賑わいに年々翳りが見え始めてきた。そんな折、昭和40年の都市計画決定以来、長らく未着手だった駅北口の再開発計画が平成25年度より開始された。新たに建設される駅直結型のツインタワーには商業施設が入居する。かつて駅ビルの竣工が商店会の地盤沈下のきっかけとなった苦い経験があるだけに東栄会をはじめ、北口各商店会は危機感を募らせることになった。

**再開発による移転、
廃業で地盤沈下に拍車**

前記のとおり北口、本町地区には5つの商店街がある。さらに北側に隣接する本多地区にも3つの商店街があり、計8商店街で北口の商店街を形成している。

ただ商店街同士の連携もなく、イベントなども各商店会が限られたエリアで散発的に行ってきたために、なかなか集客に結びつかなかった。



進む再開発工事

また程度の差こそあれ、各商店街は会員の高齢化による活動の担い手不足、個店の廃業、大手チェーン店の進出などによる組織率の低下といった問題を抱えていた。さらに一部の商店街は再開発開始による廃業や移転で会員数の減少に拍車がかかり、活性化や再開発対策を行おうにも商店街として一体的な取り組みを行うことが難しくなっていた。

**世代交代が
活性化のきっかけに**

もちろん各商店街の会員たちは北口の地盤沈下を指をくわえてみていたわけではなかった。いかにして駅ビルから人を商店街に連れ出すか？平成10年代半ばに会員の世代交代期を迎えていた東栄会では若手会員が立ち上がる。平成16年、若者部会が中心となり商店街のシンボルになっている延命地藏尊にちなんだ「ぶんじぞう祭り」をスタート。これが活性化策の端緒となった。

商店街連携イベント
「ぶんじマルシェ」スタート



東栄会の通り



シンボルぶん地蔵

東栄会では「ぶんじぞう祭り」の中心的なメンバーである若手の中から平成22年度に百田晶子氏（現東栄会副会長）が、翌平成23年度には荒井大介氏（現東栄会会長）が進め！若手商人育成事業のセミナーに参加した。そこで他の商店街の振興、活性化の取り組みに大いに刺激を受けた両氏を中心に、東栄会のみならず北口全体の商店街の活性化、まちづくりという観点から、平成24年度から26年度まで公社自主事業「商店街コミュニティ機能強化事業」として、東京経済大学の教員、学生と月1回の勉強会を開いた。

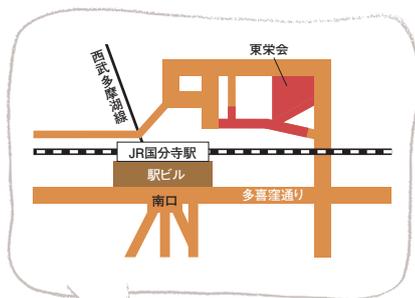
「商店街コミュニティ機能強化事業」では、国分寺駅再開発事業への危機感から北口の商店街にも参加を呼びかけ、「北口を変える会」を組織。再開発事業の問題点、将来構想などを話し合った。様々なアイデアが出されたが、そのひとつが各商店街で実施していたイベントの共同開催、北口各商店街との連携だった。平成25年、東栄会が中心となり本町地区5商店街として国のにぎわい補助金を活用、商店街の連携イベント「ぶんじマルシェ」をスタートさせる。「ぶんじマルシェ」は商店街の飲食店が提供するメニューを食べ歩き、飲み歩き「ぶんじバル」、商店街で仮装パーティーやコンテストを行う「ぶんぶんハロウィン」、子どもたちが商店街の店舗で職業体験を行う「ぶんざニア」からなる。特に「ぶんざニア」は、個店からチェーン店、警察、消防の協力も得て北口商店街が一体となって盛り上がる、今や国分寺の一大イベント。商店街ならではの、商店街だからこそできるイベントとして東京はもとより他県の商店街からも視察に訪れるなど注目を集めている。

北口全商店街の法人化が課題

「商店街コミュニティ機能強化事業」は平成26年度で終了。「ぶんじマルシェ」によって一定の成果を挙げた後も、「北口を変える会」を継続。平成27年度からは商店街パワーアップ作戦による専門家派遣を利用し、さらなる活性化策と、工事の本格化している再開発対策に乗り出している。

現在、「北口を変える会」の一番の課題は北口全商店街の法人化。個々の商店会を統合し組織的な強化を図り、再開発ビルの商業施設とも連携して国分寺をより活気のある魅力的な街にしていこうというわけだ。本町地区5商店街、本多地区3商店街の計8商店街の統合、法人化を目指している。商店街法人化には対象エリアの2/3の事業所の入会が必要になるが、現在、加入率は5割に達していない商店街もある。駅からの距離などによって共同イベントでの集客力にも差があり、温度差が生じているのも事実だ。また商店街の会費の違いなど統合までにつめなければならぬ問題は少なくない。

北口再開発の完成は平成30年。東栄会をはじめ北口各商店街に残された時間は多くはないが、これまでがそうだったように意欲の高い会員たちによる勉強会が突破口になるはずだ。駅直結型ツインタワーには商業施設だけでなく500戸超の住宅が入る。法人化により商店街の「基礎体力」が高まり、「ぶんじマルシェ」のように駅ビルから人を商店街に連れ出す仕組みが確立されれば、再開発は商店街のさらなる活性化のチャンスにもなり得る。



会長 荒井大介



商店街では、危機感があっても、何か新しいことを始めることは容易ではありません。しかし、進め！若手商人育成事業のセミナーでの他の商店街との交流や商店街コミュニティ強化事業で大学の先生や学生と勉強会を持ったことは刺激になり、活性化の原動力になりました。再開発を商店街改革のチャンスと捉え、商店街の連携強化に向け「攻め」の姿勢で活動していきたいと思っています。

- 商店街名 東栄会
- 会員数 58
- 連絡先 会長 荒井大介
(タツミ建設株式会社 代表取締役)
- 電話 042-324-2131 (タツミ建設株式会社)
- URL <http://kokubunji.shop-info.com/04/>
- 活用施策 商店街パワーアップ作戦
(振興公社自主事業 商店街コミュニティ機能強化事業)